2019（平成 31）年 1 月 16 日
「タガログ語移動表現の経路表示」
発表者：長屋尚典（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

タガログ語の移動表現は様態と経路が主要部 (=主動詞) の位置を巡って競合する。すなわち、文法的には、様態と経路のどちらも、主要部にも主要部外要素 (前置詞・副詞など) にもなることができる。本発表では、通言語ビデオ実験の結果を分析することで、タガログ語において、様態と経路のどちらが主要部になるかを決定する要因として経路の種類があると主張する。とりわけ、経路の表現方法が経路の種類によって異なっていること、ならびに、その傾向が本ワークショップで提案される序列におおよそ沿っていることを示す。たとえば、経路 to が圧倒的に主要部外要素で表現される一方で、経路 up は主動詞によって表現されることが多い。タガログ語については長らく pure verb-framed language (Huang and Tanangkingsing 2005:337) あるいは主要部表示型言語であると考えられてきたが、本発表は全く別の結論を導くことになる。